

2020 / 21 男子プロポイントランキング途中経過

3連勝で2020年を終えた 永野の快進撃は続くか!?

2020年の男子レギュラーツアーは、コロナ禍で延期や中止が相次ぎ、9月24日に行われた新設のドリストメンズカップが開幕戦となった。同じく新設トーナメントのAPAプレゼンツ・キングス&クイーンズ(以下APA・K&Q)、そしてJPBA★SSSカップ、全日本プロ選手権と、開催された大会はわずか4本にとどまった。

APA・K&Qから全日本まで、3連勝を飾った永野すばるの充実ぶりが際立った。もちろんポイントランキングでトップ

に立っているが、とくに賞金ランキングはすでに700万円余りを稼いで独走態勢だ。

ランキング2位につける藤井信人は、APA・K&Qと全日本の優勝決定戦で永野に敗れ、いずれも準優勝だったが、172ポイント差と射程圏。アベレージでは僅差ながら永野を抑えてトップに立っている。

現在3位の谷合貴志、6位の山本勲ら実力者が順当に上位を占めるなか、ドリストメンズカップで、新城一也がレギュラーツアーでは初の両手投げ覇

者となった。一昨年の新人戦でも両手投げの森元洋行が優勝しており、すでにPBAでは両手投げが一大勢力となっているが、JPBAでも大きな潮流となるかどうか注目される。

新城は55期だが、1年後輩の56期では松浦和彦が4位、水野耕佑が11位につけ、さらに57期では佐藤貴啓が7位。



▲APA協賛大会優勝時の永野。ここから快進撃が始まった(20年11月7日、王子・サンスクエアボウル)

●2020 / 21 男子ポイントランキング				
順位	選手名(期別)	ポイント	アベレージ	獲得賞金
1	永野すばる(40)	2,475	220.24	7,158,100
2	藤井 信人(52)	2,303	220.72	3,311,500
3	谷合 貴志(52)	1,656	212.11	1,846,000
4	松浦 和彦(56)	1,083	203.93	800,000
5	新城 一也(55)	1,076	199.90	1,300,000
6	山本 勲(44)	1,031	218.25	989,000
7	佐藤 貴啓(57)	1,011	209.21	870,000
8	森本 健太(51)	821	209.94	660,000
9	渡邊 雄也(52)	816	207.36	508,600
10	渡邊 航明(49)	782	204.10	395,000
11	水野 耕佑(56)	753	198.70	350,000
12	齊藤 祐哉(49)	724	209.72	731,200
13	甘糟 翔太(54)	690	207.38	527,000
14	玉井慎一郎(37)	665	206.88	432,900
15	高橋 俊彦(55)	618	199.25	335,600
16	川添 斐太(49)	612	209.08	441,200
17	和田 秀和(48)	608	205.10	391,000
18	入口 光司(54)	600	200.38	500,000
19	齋藤 剛一(52)	597	199.19	260,000
20	高田 浩規(52)	574	206.26	398,000

※2020年終了現在

ルデンボウル)に開催予定のグリコセブンティーンアイス杯(男女共催)となりそうだ。注目はなんといっても永野の4連勝なるかどうかだが、他のプロもそれを阻止すべく全力で挑んでくるだろう。そして、昨年は鳴りを潜めていた感のある川添斐太(現在16位)が、どこでエンジン全開となるかにも注目だ。

そしてランキングは28位だが、(ポイント加算されない)新人戦で初タイトルを獲得した藤村隆史など、新しい勢力の台頭も目立ってきた。

今のところ今年の開幕戦は、5月22~23日(富山地鉄コー

FOCUS UP

妹・小林よしみの初タイトル獲得で気になる姉・あゆみの“今”



▲この日のチャレンジでは4G890をマーク。ちなみに46人の参加者のうち、ハンデ込みで彼女のスコアを上回ったのは4人だった

2月28日午後、小林あゆみはホームセンターのトミコシ高島平ボウル(都内板橋区)でチャレンジマッチを開催していた。デビュー当時から公認ファンクラブを有する人気プロだけあって、この日の参加者も“満員札止め”の46人。その表情は、スランプの真っ只中だった一昨秋の取材時よりもはるかに明るく、生き生きとしていた。

うれしかった 妹の全日本初V

昨年は公式戦6大会に出場して入賞2回(六甲クイーンズ10位、JPBA★SSSカップ9位)。妹・小林よしみが悲願の初タイトルを獲得した最終戦の全日本女子プロ選手権では、初日の予選 Part2終了時点で8位(よ

しみは7位)につけていたが、2日目に失速し、わずか8ピン差で準決勝進出を逃す(総合25位)という、悔しい結果に終わっている。

「最終日は午前中だけ会場にいて、決勝はランクシーカーの生配信を自宅のパソコンで見っていました(苦笑)。妹の優勝はもちろんうれしいです。よしみの場合、いつもそこそこいい位置にいながら、あと一歩というところでチャンスを逃すことが多かったため、ここまできたら優勝してほしいなという気持ちで見っていました。全日本はいちばん大きいタイトル。私もいつかは獲りたいですね」

よしみといえば、前号の本紙インタビューで、常に姉の後塵を拝していた時代の複雑な胸中

を明かしていたが、あゆみは「私が感じていなかっただけかもしれないけど、姉妹でギクシャクするようなことはなかったと思います」と苦笑する。センターの大会予定表を見ると、3週前の祝日(2月11日)には姉妹のダブルチャレンジが開催されていた。

「普段は二人のスケジュールを合わせるのが難しいけれど、トミコシであればよしみの都合に合わせてチャレンジも企画できる。ここ数年はバレンタインの時期に開催するのが定番化してきています」

デビュー10周年 今後の目標は?

トミコシでは「副支配人」の肩書を持つが、「イベントや大

会の企画をスタッフと一緒に考えたりはするけれど、基本的にはプロとしての仕事(チャレンジやボウリング教室など)が中心」という。また、センター主催のリーグにも2本参加。人気プロゆえ、全国各地のセンターからも毎月コンスタントにチャレンジの依頼が舞い込む多忙な身だが、今年は新規スポンサーの獲得も目指したいという。

「体作りを含めてスポーツメーカーさんにごヒイキにしてもらえたらいいな、と。プロスポーツ選手として見てもらえるだけの体作りをして、その上でボウリングも結果が残せたらいいと思っています」

ボウリングに関しては「投げ方云々を変えるのではなく、ライン取りやボールのチョイスがしっかりできるように勉強したい。30歳を過ぎたので、マッサージや整体でキチンと体をケアしていくことも必要ですね」という。

今年はデビュー10周年の節目の年。コロナ禍の影響で統合された2020/21シーズンはポイントランキング36位での折り返しとなったが、今年目標はどのあたりに置いているのだろうか?

「順位戦で投げるのはイヤなので(笑)、最低限、第2シードには入っておきたい。第1シードも、今ポイントは3勝ずつした(姫路)麗さんと(坂本)かや

ちゃんが取り合っていて、ボーダー(18位)まではそんなに離れていないので、可能性があるうちは狙っていきたいです」

13年の宮崎プロアマオープンで3勝目を挙げて以来、優勝からは遠ざかっているだけに発信は至って控え目だが、P★Leagueではここ2年で3度優勝し、昨年の第15シリーズは総合優勝も果たしている。調子は間違いなく上向きだ。

「引越したこともあって、実はここ半年くらい、練習もトレーニングもほとんどできていないんです(苦笑)。チャレンジを練習がわりにしている人いるけど、私は練習で黙々と数を投げたいタイプ。ツアー再開の時期に合わせて、時間を作って仕上げたいと思います」(取材協力: 共同エディット)



▲「基本マイペースで、周りの人の成績はあまり気にならない」という

こばやし・あゆみ / 1989年11月19日生まれ、栃木県出身。159センチ、左投げ。2011年プロ入り(44期 / ライセンスNo.478)。公式戦優勝3回、P★League優勝5回。トミコシ高島平ボウル所属。